

令和7年度第1回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和7年6月24日（火） 14：30～15：45

2 会 場 大会議室

3 参加者 学校運営協議会委員（10名）

学校運営協議会委員 A 出席

学校運営協議会委員 B 出席

学校運営協議会委員 C 出席

学校運営協議会委員 D 出席

学校運営協議会委員 E 出席

学校運営協議会委員 F 欠席

学校運営協議会委員 G 出席

学校運営協議会委員 H 欠席

学校運営協議会委員 I 出席

学校運営協議会委員 J 欠席

※欠席者の学校概況資料等は、後日郵送する。

学校側参加者（13名）

校長・事務長

（全日制）副校長・総務主任・教務図書主任・生徒指導主事・進路指導主事

（定時制）副校長・教務主任・生徒指導主事

（通信制）副校長・教務主任・生徒指導主事兼進路指導主事

※受付・記録係として、総務課員2名が同席

4 次 第

（1）開会のことば

（2）学校長挨拶

- ・本校発展のために御助言を頂きたい。
- ・昨年度より学校運営協議会を設置した。学校評議員は実施したものについて、どうすればより良くなるか、本校の課題について共に考えていただきたい。
- ・151名が今年度入学したが、600名中の489名で100名以上の定員割れである。
- ・宮古地域における中学校を卒業する生徒数は令和元年度652名、令和7年度551名、令和15年度402名、令和20年度は309名と大幅減になることが報告された。

（3）自己紹介

（4）学校概況説明 … 学校概況説明資料による

①全日制（全日制副校長）

資料の通り

- ・重点目標について、読み上げて確認。（詳細は学校要覧）
- ・地域の期待に応えることができるように文武両道に励んでいる。
- ・いじめのない学校を目指している。
- ・生徒数においては、100名以上の定員割れであるので、魅力を発信していかなければならない。

- ・本校職員は、授業と部活動どちらにも一生懸命である。生徒の90%が部に加入している。
- ・総合的な探究の授業に力を入れ、課題を解決する力、考える力、表現する力等を身につけていく。
- ・昨年度に引き続きSTEAM教育推進校として県から指定されており、さまざまな活動を行っている。
- ・進路指導過去3年間、卒業生の半数以上が国公立大学に合格している。(詳細は学校要覧)
- ・運動部では今年度ヨット部、ボート部、空手道部がインターハイに出場する。その他県上位多数。
- ・文化部では放送部、吹奏楽部が県上位入賞している。(詳細は学校案内)

②定時制（定時制副校長）

資料の通り

- ・重点目標について、読み上げて確認。(詳細は学校要覧)
- ・今年度の在籍生徒数は28名である。勤労学生は現在在籍していない。過去に不登校を経験している生徒がほとんどである。
- ・中学校からの学び直しも含めた、きめ細やかな授業を実施している。学びに再挑戦する生徒を求めている。
- ・定通併修制度によって、3年間で卒業できる制度もある。
- ・様々な行事を通して交流を深めている。
- ・総合運動部、総合文化部において優秀な成績を収めている。
- ・発達特性のある生徒の進路先をどう決めていくかが今後の課題である。外部組織と連携して取り組んでいる。

③通信制（通信制副校長）

資料の通り

- ・受講生は94名おり、男子4割、女子6割の割合である。多様な生徒の学びの場となっている。
- ・自学自習が基本で、4年で卒業を目指す。(水曜日のスクーリングにより3年で卒業も可)
- ・生涯にわたって学び続け、自分を認め、他者を認めるような生徒を育てていきたい。
- ・卓球部・バドミントン部が全国大会に出場する。
- ・様々な行事を通して交流を深めている。

(5) 質疑応答

○ 運営協議会委員C 全日制の生徒数について、辞める生徒数が多いのではないかと

A. 中学校の時から学校に足が向かない生徒が高校1～2年生の時に再び不登校傾向になる。

全国的に進路変更する生徒が増え、その生徒らの受け皿として定時制、通信制などがある。

(6) 学校運営協議会委員から

○運営協議会委員A

宮古地区の生徒数が1年で大幅に減っているのが苦しくなっている。学校の特色をどう出していけるかが課題ではないか。小中の連携において地域連携、地域活動できることで、今いる地域の魅力を知ることできる。「地域に残って何かやりたい」と感じることをできるものを我々は見つけていく必要がある。通信制の生徒数は増えているので、そこに何か工夫があるのではないかと。

○運営協議会委員D

今年は宮古市内の小学生数が151名であり、顕著な減少と学校の統合がある。高校の数も今のままでいいのか。学校で生徒を取り合う現象が発生するのではないかと。どのような特色で学校を運営していくか考えていく必要あると感じる。商業分野への希望がある生徒が増加しているので、明確な目標をもった生徒を宮古高校に入れるために、「宮古高校では、～ようなことができる」という強いアピールが必要ではないかと。また、選択肢が増えていっているので、学校を辞めやすい環境ができちゃっている。以上の問題に立ち向かうためのアピールが必要なのでは。

○運営協議会委員 G

旧制中学校の役割継承（進学）を重要視していただきたい。宮古短期大学には通信制卒業の生徒が3名いる。私立を3年で卒業していることから、宮古高校通信制でも、3年で卒業できる制度をもっと広めていただきたい。スクーリング会場を宮古短大も使用して、3年で卒業できることを宣伝すべきである。

福島県で10年先の高校再建計画がある。それは20年前から始まっていて、岩手県でも計画しているはずである。その中で、どう教育を維持していくかが課題である。

○運営協議会委員 E

障害者相談件数が増えている背景として、教育機関とその関係機関との関わりが増えている。

また、福祉関係機関を利用する学校が増えている。企業でも人材確保が困難になってきていることから、発達障害者が仕事を得る機会を提供している事業もある。学校関係者にも介入していただくと福祉機関としてもとても助かる。

○運営協議会委員 I

新しく何か魅力を生み出すよりも、宮古高校は宮古高校の方針で、地域の生徒を責任持って育てていただきたい。

○運営協議会委員 B

内陸に出ていく生徒が多いので、宮古管内に健康スポーツ科がある高校があれば生徒流出を防げらと思うので、県教育委員会に要望してもいいのではないかな。